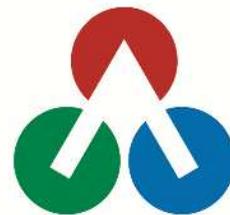


おとり大根 CR-1のご紹介



朝日アグリア株式会社

ASAHI AGRIA CO., LTD.

根こぶ病とは

病原菌がアブラナ科の作物の根に侵入してコブを形成し、コブに栄養を摂られるため、作物が萎れ、黄化する病気。

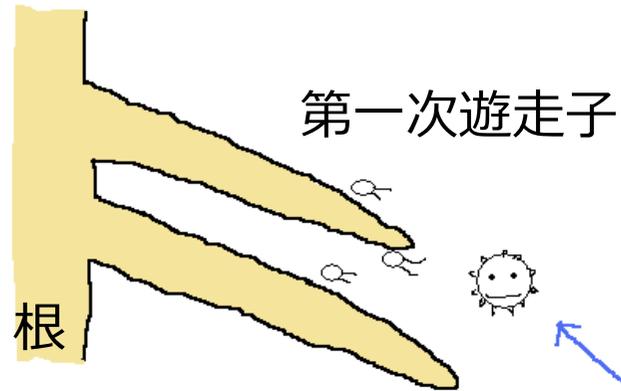


正常な根



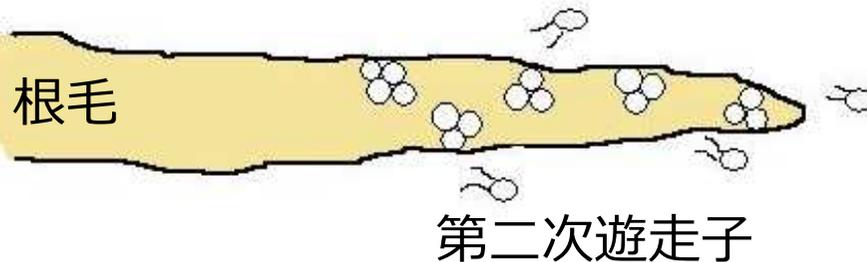
コブが形成された根

アブラナ科野菜の場合



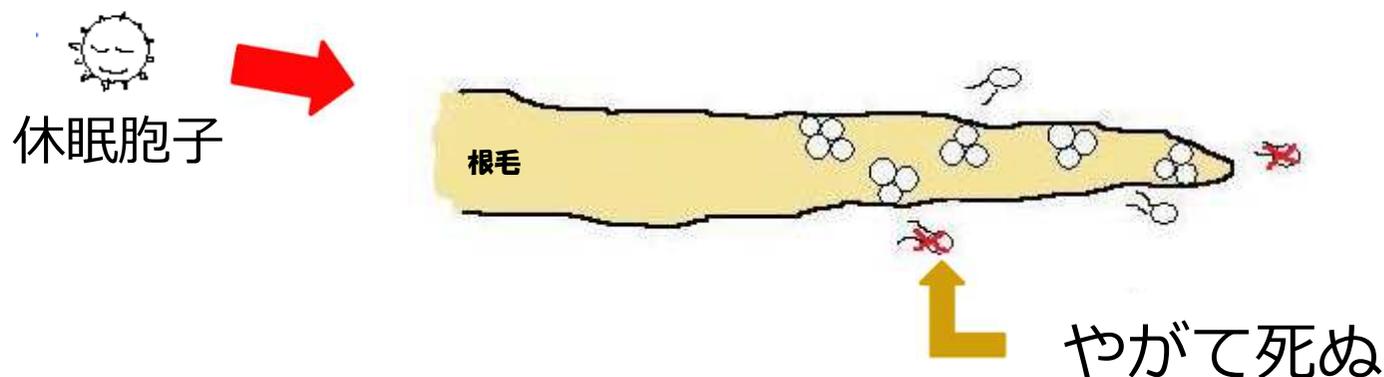
根こぶ病菌は、土の中では休眠胞子の状態で存在します。植物の根が近くに寄ってくると活動を開始し、第一次遊走子が根毛に侵入します。
(根毛感染)

休眠孢子



根毛の中で遊走子嚢を作って増殖し、植物体外に第二次遊走子が出ていきます。この遊走子は核融合し、再び根の皮層部に侵入して細胞を異常増殖させ、コブを形成します。

CR-1の場合



根毛感染の後、根毛から弱った第二次遊走子が出ていきますが、やがてそれらは死んでいきます。その結果、細胞の異常増殖は起こらずコブが形成されません。

土壤中の根こぶ病原菌密度が減少

栽培方法（播種時期・播種量）

播種時期

- * 根こぶ菌は気温上昇に伴い、活動が活発になります。
そのため、播種時期は春が終わる頃の気温上昇時より播種する事が最適です。
- * 栽培時期が、気温の下がる秋以降になる播種は避けてください。**「根こぶ菌の活動はしません。」**

播種量

- * 標準播種量6ℓ/10aですが、**倍量12ℓ/10a播種を推奨します。**
「栽培期間の短縮と菌密度早期低下が望める為。」

栽培方法（播種方法）

- * 天気予報を確認し、降雨前が最適。
- * 基本ばら撒き播種。
 - ・ ライスソワー使用の際、ソルゴー等混ぜて量を増やすと均一に蒔ける。
 - ・ 小麦播種機等、使用で筋蒔き可能。



・ **ばら蒔き播種後の発芽**



・ **小麦播種機 播種後の発芽**

栽培方法（播種後）

- * ロータリーにて種子と土を混ぜるように**軽く混和**。
「決して、深くロータリーをかけないこと。発芽しません。」
- * 軽く混和後、**鎮圧する事で発芽率が良くなる**。
「鎮圧ローラー・トラクターのタイヤにて踏む。」

・ばら蒔き 播種後状況



・小麦播種機 使用後状況



栽培方法（生育途中）

- * 気温が高い時期の栽培になり、**害虫（コナガ・アオムシ）の発生時期と重なる**ため、気になる場合最低限の防除をお勧めします。
- * 食害にあっても、**CR-1の効果には影響ありません。**

- ・ ばら蒔き
播種後状況



- ・ 小麦播種機
使用後状況



栽培方法（鋤き込み時期）

- * 通常栽培期間は1ヶ月程度です。
- * 圃場確認し畑の土が、CR-1の葉で見えなくなった頃が、鋤き込みのタイミングです。
- * 鋤き込み後さらに1ヶ月程CR-1を腐らせるため、時間が**必要**です。

★鋤き込み時期の圃場状態



★鋤き込み時期の株と根の状態



その他気を付けること

- * CR-1 を作付けする場合には、**同時に根こぶ病用殺菌剤を散布しないでください。**
CR-1の効果が全く無くなります。
(注) オラクル殺菌剤は除く